

# 令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	東京書籍 政治・経済			副教材	愛媛県高等学校教育研究会公民部門編 2024 政治・経済ワークブック				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点				
				知	思	主					
1 学期	4	第1章 現代日本の政治	1節 民主政治の基本原則	民主政治の成立 法と民主政治	◎	○	学習のねらい  1編「現代日本の政治と経済」では、現代日本の政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第1章・第2章で概念や理論について学んだうえで、第3章でそれを活用して現代日本の諸課題を探究する活動を行います。第3章では、自分の探究課題(問い)を決め、情報を収集し、読み取り、整理したうえで自分の主張を決め、レポートを作成します。 第2編「グローバル化する国際社会」では、国際政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。第1章・第2章で概念や理論について学んだうえで、第3章でそれを活用して国際社会の諸課題を探究する活動を行います。第3章では、自分の探究課題(問い)を決め、情報を収集し、読み取り、整理したうえで自分の主張を決め、レポートを作成します。				
				基本的人権の確立 現代の民主政治		◎		○			
				世界の主な政治体制		○		◎			
	5		2節 日本国憲法の政治原理	日本国憲法の制定と基本原理	◎	○		学習の目標  国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。			
				基本的人権の保障 平和主義	中間考査	◎			◎		
			3節 日本の政治機構	国会と立法 内閣と行政 裁判所と司法 地方自治	○	◎					
	6		4節 現代政治の特質と課題	戦後政治と政党 選挙と政治意識	◎	○			評価の観点  知識・技能  社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		
				世論と政治参加		◎				○	
		第2章 現代日本の経済	1節 現代の資本主義経済	経済活動の意義 資本主義経済の発展と変容	◎	○				思考・判断・表現  合意形成や社会参画に向け、国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。	
				期末考査	◎	◎					
	7		2節 現代経済のしくみ	経済主体と経済の循環	◎	○					主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
				生産の仕組みと企業 市場経済の機能と限界 国民所得と経済成長	◎	○					
8			金融のしくみと機能		○	◎	備考				
		9	3節 日本経済の発展と現状	戦後日本経済の発展 日本経済の現状	◎	○					
			4節 福祉社会と日本経済の課題	公害と環境保全 農業・食糧問題 中小企業の現状と課題 情報化の進展と社会の変化	○	◎					
10			消費者問題		◎	○					
			中間考査	◎	◎						
			雇用と労働問題 社会保障と福祉	○	◎						
11	第3章 現代日本の諸外国		少子高齢化社会における社会保障 地域社会の活性化		◎	○		主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。			
			多様な働き方・生き方の実現 中小企業の意義と課題	◎	○						
12	第1章 現代の国際政治	1節 国際政治のしくみ	日本の財政の健全化 持続可能な食糧・農業の実現	○	◎	主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。					
			国際政治の特質 国際社会と国際法 国際連合の役割と課題	期末考査	◎				◎		
1	第2章 現代の交際政治	1節 国民経済と国際経済	貿易と交際取支 戦後国際経済体制の変容		○				◎	主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。	
			2節 世界経済の現状と課題	グローバル化する世界経済 人口・貧困・感染症	◎				○		
		第3章 国際社会の諸課題	グローバル化にともなう社会変容 持続可能な社会の実現	○	◎						
2			家庭学習						主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。		
			"								
			"								
3			"								主体的に学習に取り組む態度  よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
			"								
			"								

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 「政治・経済」は「公共」の学習のうえに成り立つ科目ですので、学習全体を通して「公共」との関連を図ります。これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。
- 日ごろからメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたり論点を見いだしたりすることに努めること。
- 客観的な資料にもとづいて、諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身につけること。
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
  - ア 現代社会をとらえる視点や枠組み、基本的な概念や理論の理解を図ります。
  - イ 一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
  - ウ 資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、方法や社会の在り方などを構想する力を身につけます。
- 現代の諸課題を探究する際のレポートを評価のための資料とします。
- 課題の設定・追究、まとめの学習を行う際には、教科書の「探究のスキル」などを参考にしてください。
- ワークブックを用いて復習を行います。
- 授業開始の1分前には着席をして、教科書・ノート等の授業準備をするように習慣づけてください。
- 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
- 常に「なぜ？」という問題意識を持ち、探求的な態度で取り組みましょう。

【家庭学習】

- 学習内容の振り返りを行う際には、教科書の節末にある「節のまとめ」や「節の課題に取り組もう」などを参考に→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことも大切です。

【定期考査】

- 教科書・ノートを読み直し、授業内容を確認しましょう。
- 各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します

◆評価の方法、規準

評価の方法	ア 年5回実施の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。	
	イ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。	
	ウ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。	
	エ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均で評価します。 (上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。)